

第6学年国語科学習指導案

1 単元名 生き方を考えよう 「海の命」

2 指導観

① 児童の実態

本学級の児童は、これまでに、物語文「カレーライス」や「やまなし」の学習を通して、読みのめあてに沿って物語を読み進める学習をしてきている。「カレーライス」では、登場人物の行動や言葉などから気持ちの変化を読み取ることを通して、身近な家族との関わりの中で感じる自分の考えと友達の考えの共通点や類似点、相違点を意識しながら読み深めたり、物語「やまなし」で五月と十二月のふたつの幻灯に分けて描かれている構成的特徴をとらえ、二つを対比して読むことによって、作者が語りかけていることが何かを考えたりしてきた。

これらの学習を通して、文章のあらすじをとらえ、人物の気持ちの変化や情景に着目しながら読むことで書き手が伝えたいことを読み取り、自分の考えを深めていくおもしろさに気付くことができている。

② 教材の価値

本教材は、主人公太一が漁師として生きていく中で、海の命のつながり合いに触れ、様々な葛藤をしながらも、漁師としての生き方を自分なりに生み出していき、成長する姿を描いた物語である。

本教材の中には、父の命を奪ったクエに対する太一の気持ちの変化を表す叙述や、「村一番の漁師」や「村一番の漁師であり続けた」という太一の生き方を表す叙述がある。これらから、自分の見方、考え方、感じ方を見つめ、自分の言葉で考えを表現し、読み深めることができると考える。また、その考えを交流活動によって伝え合うことでさらに自分の考えを豊かにすることができ、互いに学びあうことができると考える。

③ 指導に当たって

本教材の指導に当たっては、次のような工夫を考えている。

- i 出合う段階では、まず、題名と冒頭から読みのめあてを生み出させる。そのために、冒頭からもぐり漁師だった父のような漁師になりたいと思っている主人公太一のクエをしとめようとして亡くなってしまった父への思いを叙述に着目させた上で、「父のような漁師になりたいという夢をもっていた太一は、父を亡くして、これからどう生きていくのだろう」という読みのめあてをつくる。
- ii 見通す段階では、読みのめあてに対する自分の考えをもたせるために、まず、どんな物語なのか全文を読ませる。次に、主人公の気持ちを表す叙述に線を引かせ、気持ちの移り変わりをとらえさせた上で、自分の考えを書かせる。それから、読みのめあてに対する自分の考えを交流し合い、何をどう読んでいけば太一の生き方をより深く見つめられるか話し合った上で、読み確かめの計画を立てる。
- iii 読み確かめる段階では、読みのめあてに迫る考えを深めさせるために、父の命を奪ったクエに対する太一の気持ちの変化をとらえることや、「村一番の漁師であり続けた」というのは太一がどう生きていったことなのかという課題を解決させる。ひとり読みの活動では、まず、音読をすることで、読み確かめるために必要な叙述に目をつけさせる。次に、着目させたい叙述が入った学習プリントを使って、めあてに対する自分の考えを書かせる。その際、単一的な自分の考えでなく、自分の考えをつないだり、比べたり、変化したところを明確にしたりして書き込みをさせるようにする。交流活動では、自分がどんなことを考えたのか、聞き手に伝わるように根拠を示しながら話したり、自分の考えと友だちの考えを比べながら聞いたりすることができるよう、発表の仕方の明確な提示と、視覚的にとらえやすい板書の工夫を行う。
- iv まとめの段階では、見通す段階で書いた読みのめあてに対する自分の考えを振り返り、読み確かめたことをもとに、太一の生き方について、どう思うのか、自分の考えを書きまとめさせる。そのことを通して、読み確かめたことによって自分の考えを深め広げることができたということを実感させる。

3 目標

- ◎ 太一の気持ちが読み取れる叙述を見付け、それらをつなぎ、そこから太一のどんな気持ちの変化が分かるのかについて、自分の考えを書くことができる。《自ら》
- ◎ 読み取ったことをもとに、自分の考えが伝わるように分かりやすく話したり、自分の考えと比べて聞いたりして、考えを深めながら交流することができる。《互いに》
- ◎ 漁師としての技術が村一番というだけでなく、海に生きる魚や家族の命を大切にする村一番の漁師であり続けた太一の生き方を、叙述を根拠に読み取ることができる。《読み》

4 指導計画：9時間（※支援 aはひとり読みに関する支援 bは交流活動に関する支援）

配時	主な学習活動と内容（○）	支援（※）と評価の視点（◆）
1	<p>題名と冒頭文から読みのめあてをつくる。</p> <p>1 題名から想像したことを話し合う。</p> <p>2 冒頭を読む。</p> <p>3 題名と冒頭をつないで読みのめあてをつくる。</p> <p>○ 太一がどのような夢をもっていたのか、父のことをどう思っていたのかを読み取ること。</p>	<p>※ 題名「海の命」の「の」を別の言葉で置き換えることで「の」の働きをとらえ、題名の意味を考えさせる。</p> <p>※ 読みのめあてをつくるために、父はどんな漁師だったのか、父の死を太一がどう受け止めたのかを話し合い、これから何に着目して読み進めていけばいいのか考えやすい発問をする。</p> <p>◆ 主人公が持っていた夢や父の死に対する気持ちをとらえているか。</p>
	<p>【読みのめあて】 父のような漁師になりたいという夢をもっていた太一は、父を亡くして、これからどう生きていくのだろう。</p>	
2	<p>全文を読み通して太一がどう生きたのか読み、読みのめあてに対する自分の考えを書く。</p> <p>1 全文を読む。</p> <p>2 時間の順序に沿って、太一の生き方を簡単な年表に書く。</p> <p>○ 六場面で構成されていることをとらえ、太一がどう生きているのか、簡単なあらすじをつかむこと。</p>	<p>※ 一行空きで段落構成がされていることや、時間を表す言葉が多く使われていることに着目させ、あらすじをつかませる。</p> <p>◆ 文章の構成とあらすじをつかむために全文を読み、太一の生き方を年表に書きまとめているか。</p>
3	<p>3 読みのめあてに対する自分の考えを書く。</p> <p>○ とらえたあらすじをもとに、叙述を根拠に自分の考えを書くこと。</p>	<p>※ 読みのめあてに対する自分の考えが書けるよう個別に机間指導する。</p> <p>◆ 根拠となる叙述を見付け、自分の考えを書いているか。</p>
	<p>【読みのめあてに対する自分の考え】 様々な経験を積む中で、漁師としての腕前が村一番になっただけでなく、海に生きる魚や家族の命などを大切にする村一番の漁師としてずっと生きていきました。</p>	
4	<p>4 互いの考えを交流し合う。</p> <p>5 疑問に思ったことや、読み確かめたいと思ったことをもとに、学習計画を立てる。</p>	<p>※ 交流活動が展開しやすい発問をする。</p> <p>※ 学習計画を立てるために、疑問に思ったことや確かめたいことを出し合わせる。</p>

	○ 読み確かめたり、疑問に思うことを解決したりするための見通しをもつこと。	◆ 疑問に思ったことを話したり、友だちの疑問を聞いたりして、どのように読み確かめていけばよいかを考えているか。
5	<p>与吉じいさの弟子になり、「村一番の漁師になった」と認められるようになる太一の気持ちを読み確かめる。</p> <p>1 音読をする。</p> <p>2 自分の考えを学習プリントに書く。</p> <p>○ 叙述を根拠に読み取ったことを自分の言葉で書くこと。</p> <p>○ 自分の考えをつないだり比べたりして、時間の流れと共に太一にどんな気持ちの変化があったのか考えること。</p> <div data-bbox="419 723 1295 1055" data-label="Diagram"> </div> <p>3 互いの考えを交流し合う。</p> <p>○ 自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりすること。</p> <p>4 読み確かめたことをもとに、学習感想を書き、自分の読みを確かめる。</p>	<p>※ めあてを確認し、課題意識をもたせる。(a-2)</p> <p>※ 読み取った自分の考えが書けるよう机間指導をする。(a-4)</p> <p>◆ 叙述を根拠に自分の考えを書いているか。</p> <p>◆ 叙述と叙述をつないで太一の気持ちの変化をとらえているか。</p> <p>※ 交流活動の内容を視覚的にとらえやすいように整理して板書する。(b-2)</p> <p>※ 課題解決の根拠となる叙述に着目させるために発問をし、発表を促す。(b-1)</p> <p>◆ 自分の考えと比べながら聞いたり、自分の考えが伝わるように話したりしているか。</p>
6	<p>はやばやと漁を終わらせ、おとうが死んだ瀬にもぐり続けていた太一の気持ちを読み確かめる。</p> <p>1 音読をする。</p> <p>2 自分の考えを学習プリントに書く。</p> <div data-bbox="419 1686 1295 1944" data-label="Diagram"> </div> <p>3 互いの考えを交流し合う。</p>	<p>※ めあてを確認し、課題意識をもたせる。(a-2)</p> <p>※ 読み取った自分の考えが書けるよう机間指導をする。(a-4)</p> <p>※ 交流活動の内容を視覚的にとらえやすいように整理して板書する。(b-2)</p>

	<p>4 読み確かめたことをもとに、学習感想を書き、自分の読みを確かめる。</p>	
<p>7</p> <p>8 本時</p>	<p>おとうの命を奪ったクエとの出会いにより、自分の生き方を見つめ直し、村一番の漁師であり続けた太一の気持ちを読み確かめる。</p> <p>1 音読をする。 2 自分の考えを学習プリントに書く。</p> <p>3 自分の考えを交流し合う。 4 読み確かめたことをもとに、学習感想を書き、自分の読みを確かめる。</p> <div data-bbox="295 492 1436 1120" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>与吉じいさの弟子 「千びきに一びきでいい」</p> <p>作業はほとんど太一がやるようになっていた おまえは村一番の漁師だよ 「おそろしくて夜もねむれないよ」 ・立派に着った太一まで死んでしまうのではないか（不安） この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれない ・おとうの敵をとってみんなに認められる漁師</p> <p>大魚はこの海の命だと思えた ・おとうの命もクエの命も大切な命 ・おとうは海の命としてクエの中に生きている むすめとけっこんし、子どもを四人育てた 母はおたやかで満ち足りた、美しいおばあさんになった ・太一が家族を大切にしたらみんな幸せ</p> <p>村一番の漁師であり続けた ・海に生きる魚の命を大切にする漁師 ・家族の命を大切にする漁師</p> </div>	<p>※ めあてを確認し、課題意識をもたせる。(a-2) ※ 読み取った自分の考えが書けるよう机間指導をする。(a-4)</p> <p>※ 児童の発言を視覚的にとらえやすいように整理して板書する。(b-2)</p> <div data-bbox="367 1232 1340 1400" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">村一番の漁師であり続けた</p> <p style="text-align: center;"> 意志を貫く 価値を守り抜く 自己に厳しい 優しい </p> <p style="text-align: right; font-size: small;"> ・海に生きる魚の命を大切にする漁師 ・家族の命を大切にする漁師 </p> </div>
<p>9</p>	<p>太一の生き方を自分がどう思うのか自分の考えを書き、読みまとめる。</p> <p>1 音読をする。 2 「海の命」という題名の意味を考え、読みのめあてに対する最初の自分の考えと、読み確かめた太一の生き方を振り返る。 ○ 読み確かめた太一の生き方を掲示物や学習プリントなどで確認しながら振り返ること。 3 太一の生き方について自分の考えを書く。 ○ 交流をもとに、自分の読みを確かめ、学習感想を書くこと。 4 太一の生き方について自分の考えを交流し合う。</p>	<p>※ 前時までの学習プリントや掲示物で学習したことを振り返りやすくする。 ※ 書き方の例を掲示する。 ◆ 太一の生き方について自分の考えを書いているか。 ◆ 自分の考えと比べながら聞いたり、自分の考えが伝わるように話したりしているか。</p>

6 本時の目標

- ① 叙述を根拠に自分が考えたことを話したり、友達の考えを聞いて自分の考えと比べたりして、自分の考えを見つめ直すことができる。《互いに》
- ② おとうの命を奪ったクエとの出会いが、太一の漁師としての生き方の転機となり、太一が海に生きる魚や家族の命を大切にす村一番の漁師としてあり続けていったということを読み取ることができる。《読み》

7 本時指導に当たって

本時においては、次のような学習指導の工夫を考えている。

- i 導入では、まず、前時で読み取った自分の考えを振り返りやすいように、学習プリントや掲示物を見直した上で、めあての確認をする。前時を振り返り、自分の考えを想起する時間の確保を行うことによって、意識が高まり、本時でねらう交流活動がより豊かなものになると考える。その上で、全員で声を合わせて、本時場面を音読させる。全員で声を合わせることによって、目からだけでなく、耳からも内容を確認することができ、本時場面の内容をよりよく把握できると考える。
- ii 展開では、前時で書き込みをした学習プリントをもとに、交流活動をさせる。交流しやすいように、机は、コの字型に並べておく。はじめに、「村一番の漁師」とは太一がどんな漁師であり続けたということなのか、前時に書き込んだ自分の考えを代表児数名に発表させる。子どもの自分の考えは、「腕前のいい漁師」「海の命を大切にす漁師」「海の命だけでなく、家族の命も大切にす漁師」の大きく3つに分類されると考える。この3つの読みの立場を互いに明確にするために、黒板にネームプレートを貼り、視覚的にとらえられるようにする。その上で、なぜそう考えるのか叙述を根拠に解釈を交流させる。この際、とろうとしても動こうとせず、おだやかな目で太一を見つめるクエを見て、おとうの姿や与吉じいさに教えられたことを想起し、おとうは海の命としてクエの中に生きているのかもしれないと思う気持ち、クエの命もおとうの命と同じように大切な命であると考え直す気持ち、もし、とれずに自分が命を落としてしまったら、おとうが亡くなってしまったとき以上に母が悲しむのではないかという気持ちなど、それぞれ読み取ったことを伝え合わせる。ここから、おとうの命を奪ったかもしれないクエと出会ったことが、太一の漁師としての考え方の転機となったということを読み確かめると考える。

次に、「あり続けた」の意味を考えさせる。前の場面にある「村一番の漁師」や「本当の一人前の漁師」と比べることで、「あり続けた」の中に表される太一の漁師として生き方に気付かせる。この際、自分の考えを出しやすいように、小グループで交流させる。その後、友達の考えを聞いて学習プリントに書き加えたいと思ったことを書く時間の確保をする。この活動によって、自分の考えを見つめ直し、友だちの考えを聞いてどのように自分の考えが広がったかを再確認できると考える。

- iii まとめでは、自分の読みを確かめさせるために、交流活動で読み深めたことをもとに、学習感想を書かせる。学習感想は、思ったことや感じたことだけでなく、友達の意見を聞いて分かったことや、深まったことなど、幅広く書かせるようにする。この活動によって、交流活動を通して、自分の読みが深まったことが何か、明確にできると考える。

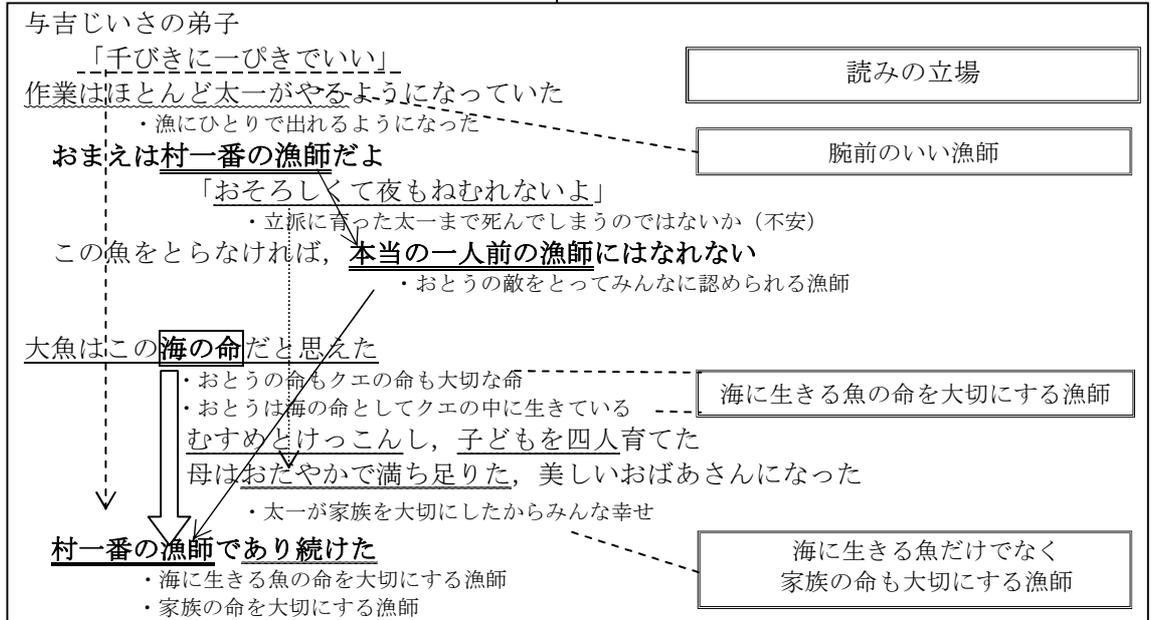
8 展開 (※支援 aはひとり読みに関する支援 bは交流活動に関する支援)

配時	主な学習活動と内容 (○)	支援 (※) と評価の視点 (◆)
2分	1 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。	※ 前時の内容を掲示物と学習プリントを使って内容を全体で確認する。(b-1) ※ 交流しやすいように机を並べる。(b-3)
	<p>《学習のめあて》 「村一番の漁師であり続けた」とは太一がどんな漁師であり続けたということなのか、自分の考えを交流して、考えを深めよう。</p>	
5分	2 本時場面を音読する。	※ 前時で読みとったことを想起したり、本時場面の内容を把握したりしやすいように、全

15分

- 3 「村一番の漁師」とはどんな漁師なのかプリントで読みの立場を明確にし、互いの考えを、叙述を根拠に交流する。
- ・ 与吉じいさに教えてもらい、漁にひとりで出るようになったから
 - ・ クエの命もおとうの命と同じように大切な命であると思えるようになったから
 - ・ 家族が幸せそうなのは、太一が家族を大切にしたから

- 員で声を合わせて音読させる。(a-1)
- ※ 「村一番の漁師」とはどんな漁師なのか自分の考えを代表児に発表させ板書する。(b-2)
 - ※ 前時で読み取った学習プリントに印をつけ、自分の考えに自信をもたせる。(b-1)
 - ※ 交流活動の内容を視覚的にとらえやすいように、整理して板書をする。(b-2)
 - ◆ 友だちの考えと比べながら聞いたり話したりしているか。

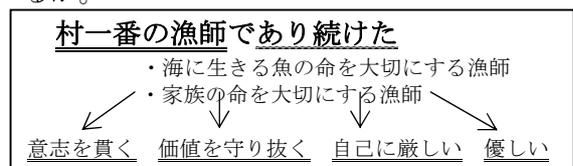


10分

- 4 「であり続けた」から太一の漁師としての生き方を小グループで考え、交流し合う。
- ・ 自分の意志を貫く生き方
 - ・ 正しいと思うことをしっかり守る生き方
 - ・ こうありたいという自分であるために自分に厳しく過ごす生き方
 - ・ 全ての命を大切にできる優しい生き方

- ※ 自分の考えを出しやすいように、小グループで交流させる。(b-3)
- ※ グループ交流がしやすいように机間指導で助言をする。(b-1)
- ◆ 板書をもとに、自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いて考えを深めたりしているか。

- 《期待される子どもの姿》
- ・ 題名や与吉じいさの教え、家族の様子と「であり続けた」をつなげて、太一がどんな生き方をしたかグループで話し合っている。
 - ・ 自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いて考えを深めたりしている。



3分

- 5 交流したことをもとに、書き加えたいと思った所を学習プリントに書き込む。

- ※ 交流活動で考えが広がったことなど書き加えたいことを書き込むよう指示する。(b-2)

8分

- 6 読み深めたことをもとに学習感想を書き、自分の読みを確かめる。
- 交流活動で深まった、太一の生き方に対する自分の考を書きまとめること。

- ※ 交流活動で読み深めたことをもとに、学習感想を書かせる。(b-2)

- 《期待される子どもの姿》
- ・ 学習プリントや板書を見直しながら交流活動をもとに学習感想を書いている。

- ◆ 学習プリントや板書を見直しながら、交流活動をもとに、自分の考えがより確かになったことや、友だちの考えを聞いて考えが深まったことなどを意識し、学習感想を書いているか。

2分

- 7 本時学習を振り返り、次時の学習内容をつかむ。